水辺・絆プロジェクト2023

事 業 実 施 報 告 書

事業名	平地(へいち)の杜(もり)づくりプロジェクト	実施場所	宮城県石巻市(いしのまきし)
申請者	一般社団法人ウィーアーワン北上(きたかみ)	関連河川名	北上川河口(きたかみがわ)／石巻市北上町長塩谷地区(いしのまきしきたかみちょう ながしおや)

1. 目　的

弊団体は、東日本大震災の防災集団移転促進事業に伴い発生した被災元地(集落跡地)を活用し、緑化活動・グリーンインフラの実証・人口減と高齢化が進む被災地の交流人口や関係人口獲得を目的に「平地の杜づくりプロジェクト」を令和3年度より行ってきた。

当プロジェクトは、地域住民や関係者との共創力の構築により、第3回グリーンインフラ大賞〔防災・減災部門〕「国土交通大臣賞」を受賞し、その手法が高い社会的評価を得るに至った。

今後は更に、プロジェクトの継続性、発展性を得るため、本事業を通じて「水辺の街の災害リスクと備え」を発信する目的で、防災・減災に向けた震災伝承活動を拡充する。

2. 実施体制(結果報告)

＜主たる実施団体＞
■一般社団法人ウィーアーワン北上　平地の杜プロジェクト(事務局)　■長塩谷地区住民の会
＜協力＞
■国土交通省北上川下流河川事務所飯野川出張所(環境づくりに伴う刈草等の資源無償提供協力)
■石巻市復興企画部復興推進課、市民生活部環境課及び北上総合支所(被災元地活用推進の協力、自然環境整備における情報提供協力)
■NPO法人　地球守(緑化技術指導協力)

3. 実施内容(開催日時・場所 など)

○実施場所:宮城県石巻市北上町　長塩谷集落跡地～白浜海水浴場の沿岸エリア

1)河口、沿岸沿い被災集落跡地の地域住民参加型の緑化活動
日時:5月14日、6月25日、10月22日、11月19日、11月26日　計5回開催
内容:河口、海岸沿いの荒廃化した集落跡地での杜づくりや苗木の植樹による緑化活動の実施。
2)地域児童・生徒への河口・海辺の自然環境学習プログラム
日時:6月25日、7月16日、8月19日、9月10日、10月21日　計5回開催
内容:自然散策による生物観察や竹遊具制作と川遊び等、自然と触れ合うプログラムを通して川・海・里地里山の環境の循環について学びを深める環境学習の実施。
3)被災集落跡地の杜づくり施工会イベント
日時:9月30日、10月1日の2日間
内容:海岸・河口地域の特性を活かしたグリーンインフラや緑化技術の手法を公開イベント型とし、地域内外から訪れる参加者の学び合いの場となった。
4)震災伝承モニタープログラムの実施
日時:6月3日(土)、7月26日(水)，8月3日(木)　計3回実施
内容:　東日本大震災による、河川・海岸沿いの被害状況、防災減災へ向けた備え、事前復興計画の必要性に触れた復興プロセスを学ぶプログラムを実施し、視察者ニーズを把握した上での資料冊子づくり。

4. 参加対象・参加者数

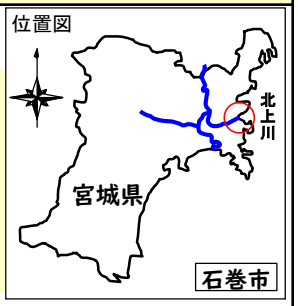
参加対象:地域住民及び宮城県内・外の個人、各種団体や研究機関、企業等

参加者数:1)延べ59名、2)延べ86名、3)延べ110名、4)38名

5. 創意工夫した点・配慮した点・苦労した点　など

・地域住民参加型の緑化活動について、昨年までは不定期開催にしていたが、参加者が事前にスケジュール調整しやすいよう定期開催とした。
・参加者が大人中心となっていたため、子供むけの自然環境学習プログラムも緑化活動と同時開催にした。
・杜づくり施工会イベントの参加者はリピーターが多い中、さらに初心者や女性にも参画しやすいよう、技術者や経験者向けと初心者や女性向けに分けてプログラムを準備することで、幅広い参加者層を獲得した。
・震災復興モニタープログラムについては、広報が難しく、震災伝承を実施している他団体に協力を仰いだ。

位置図



6. 総評(実施効果や今後期待される効果、今後に向けての反省点・改善点など)

・住民参加型の緑化活動・・・地域外からの参加者新規6名の獲得につながり、地元住民との交流が進んでいる一方で、地域住民の高齢化が進み、参加の機会は減少傾向にあることから、地域外からの交流人口獲得がこの後はさらに重要となる。
・自然環境学習プログラム・・・子育て世代の自然とふれあい機会には一定のニーズがあることを把握した。来年以降はテーマを絞って内容の濃いプログラムにまとめていく。
・杜づくり施工会・・・日本全国の個人・企業からの参加者が集まった。波及効果として、地域内の宿泊施設にも延べ100人の宿泊者があり地域経済にも貢献した。また、被災し荒廃化した里地に残るわずかな水脈の再生手法を通し、森と海、川との繋がりを体感し、また、その環境保全の大切さと貴重性、そして、その誰でも出来る再生技術を学ぶ場となった。今後は、受け入れる我々のスキルアップがさらに求められる。
・震災伝承プログラム・・震災についての伝承施設は各地にあるが、復興プロセスについて学べる施設やプログラムはほとんどない現状がわかった。今後もプログラムの充実に取り組む。広報についてが現在の課題である。資料冊子については、現在取りまとめ中。

7. その他感想等(ご自由に記入してください)

この地域の、海・山・川を有した自然環境を活かしたまちづくり、環境づくり、防災減災啓発活動に今後も取り組みながら、海に囲まれた日本において、国土の多くを占める森林、森と海を繋ぐ河川流域の環境保全の重要性を今後も体現しながら、微力ではありますが発信して参ります。

水辺から地域を元気に
水辺・絆プロジェクト

事業実施報告書（写真）

平地の杜づくりプロジェクト

		
1）緑化活動の様子１	1）緑化活動の様子２	2）自然環境学習プログラムの様子１
		
2）自然環境学習プログラムの様子２	3）杜づくり施工会の様子	3）杜づくり施工会　参加者
		
3）杜づくり施工会　参加者と住民交流	4）震災伝承プログラム１	4）震災伝承プログラムの様子２

水辺から地域を元気に
水辺・絆プロジェクト